



## なれま線、できま線

先日、ともに27歳になる元塾生の二人が結婚の報告に来てくれました。「今日入籍してきました。」とのこと。中学生の時にこの塾で知り合って、いろいろ紆余曲折はあったようですがついにゴールイン。新郎は中学生の頃から機械が好きで、自動車の開発をしたいと言っていたのですが、念願かなって今はその仕事に就いています。新婦の方はさっぱりとした明るい性格で、働いていた幼稚園ではとても人気の先生だったようです。本当におめでたく、そしてうれしい知らせでした。

さて、今回は「線を引くこと」について考えてみましょう。国語の文章の要約の問題では、いくつかのキーワードに線を引いてそれらをどうつなげていけばよいのかを考えるとわかりやすいですね。読解問題では「しかし」や「つまり」などの接続詞に線を引き、その接続詞の働きごとに線の種類を変えると文章全体の構造が見えてきます。理科では力の合成や分解を表す線は、平行線の引き方がポイント。歴史なら原因と結果のつながりをうまく線で表すクセをつけておきましょう。

ところが、自分の気持ちについ引いてしまうやっかいな線があります。ある経済雑誌の「リアルドラゴン桜」というインタビュー記事にも載っていた「なれま線」と「できま線」という二つの困った線です。将来やりたいことがあっても「どうせなれないよ」とあきらめてしまう、今やっておきたいけど少しだけ大変そうなことにぶつかると「むり、むり、できないよ」と逃げてしまう。そんな自分で引いてしまっている境界線。さてどうしたら引かずにすむのでしょうか。どうせなら発想を変えてもう1本「補助線」という線を引いてしまうのも一つの方法です。算数や数学の図形の問題でたった1本の補助線で問題がすんなり解けてしまうことがあります。「なれないよ」の前に「なれるため」の道すじをいくつかに分けてみる線、そして「できないよ」という思い込みを断ち切る線などです。

そんな補助線の力を借りて自分なりの道を歩いていきましょう！